(121)

91.6

契丹小字《耶律仁先墓誌》読後

1991年6月23日

豊田五郎

目次

一　統き柄　1
二　方位　2
三　母妻人　6
四　數詞　7

1991年6月

契丹小字《耶律仁先墓誌》読後

豊田五郎

内蒙古大学学報(哲社)1991年第1期を5月に入手した処、即実による契丹小字耶律仁先墓誌の校抄本と韓宝興の考釈論文が記載されていた。この中から幾つかの句を抜き出して、私が前に釈読した字の正否を検証して見よう。

一　続き柄

仁先墓誌の第6～8行は仁先が男五女五の仁先を長とする十人兄弟であったことを述べる。

	男		女	
長	𘬀	仁先（本人）	長	𘬀 慶莒夫人
次	𘬀	義先（富春郡王）	次	𘬀 礼節夫人
三	𘬀	礼先（未詳）	三	𘬀 桐莒夫人
四	𘬀	智先（大将軍）	四	𘬀 某
五	𘬀	信先（南院林牙）	五	𘬀 楊節夫人

第61～63行は仁先の子の昏姻を述べる。

女三　長　𘬀　某（某将軍に嫁す）
　　次　𘬀　某（韓家奴大王の子楊九に嫁す）
　　三　𘬀　某（某々に嫁す）

第3行は玄祖の三子を述べる。

長玻　楚国王（厳木）

次𠂤炎　曾国王（叙鲁）

以上を見ると序数詞の読み方に男女の区別があったのであろうか？

例えば蕭令公墓誌第23～24行を見るとやはりそうである。

太師夫人の男子二：長玻王留、次𠂤炎高某、

女子三：長又普賢女……

	長	次	第三	第四	第五
男性	玻	𠂤炎	炎（𠂤炎）	𠂤炎	𢦏（𢦏）
女性	又	𠂤当	当（𠂤当）	𠂤当	区別なし

注　即実は墓誌第7行第五に当る字を𢦏とするが、第8行の第五𢦏参照𢦏に修正。

二　方位

劉鳳翥は1983年小を部とし、1984年𠂤を東一を北と読み、王弘力は1986年小を南とし十を西と読んだ。私は1986年々契丹小字についての幾つかの探索Ⅱ》に於て十を西と読んだが果して𠂤小十一は東南西北を表わすのか？

仁先墓誌の方位を表わす字

NO.	行	摘要	北	西	南	東
①	7	第信先			鈍 [illegible] 及 [illegible] 小 [illegible] 脊 第五嗣 □ 南院林牙	
②	10	重點十一 1042			秋 [illegible] 小 [illegible] 宋国，関南十県，	
③	19	，十八 1049	一 [illegible] 脊 [illegible] 及 小 十 [illegible] 北院□部統□南西面			
④	20	，十九 1050	一 [illegible] 友 [illegible] 北院知院			
⑤	21	，廿一 1052				[illegible] 柄·行 東京，留守
⑥	28	清寧九 1063	一 [illegible] 脊 欽 北院林牙 淳古			
⑦	39	咸雍五 1069	一 十 [illegible] 至 [illegible] 北西面□阻卜，			
⑧	40	〃	一 十 [illegible] 形 [illegible] 的 [illegible] 北西面招討部統 [illegible]			
⑨	62	子度調			小 [illegible] 火 [illegible] 的 [illegible] [illegible] 南院院，事知林牙 [illegible]	

注

《仁先誌》

王之弟……曰信先南面林牙。

《興宗紀》〔重熙十年〕十二月……謀取宋旧割閩南十県地。

《仁先伝》十八年再挙伐夏、仁先与重元為前鋒。

《仁先誌》十八年西挙討夏国、命王為部統軍。

《仁先伝》

後知北院枢密使（事）

遷東京留守。

《道宗紀》〔清寧九年〕秋七月戊午皇太叔重元与其子……涅魯古……林牙涅剌溥古等犯行宮。

《道宗紀》〔咸雍五年〕春三月阻卜叛、以晋王仁先為西北路招討使。

《仁先誌》皇上以北鄙違打求不姑等部族寇辺、命王為西北路招討使往討之。

《慶嗣墓誌》

授左武衛将軍……授南面林牙。

この表は概ね年代順とし右欄に関連する史料を引用した。略称は次の通りである。

《仁先誌》　漢文耶律仁先墓誌

《興宗紀》　遼史　興宗紀

《道宗紀》　〃　道宗紀

《仁先伝》　〃　耶律仁先伝

《慶嗣墓誌》　耶律仁先の子趙不也の墓誌

	契丹小字直訳	漢文訳
㈠	南院林牙	南面林牙
㈡	関南十県	関南十県
㈢	北院□部統	北院□部統軍
	南西面	西南面
㈣	北院知院	知北院枢密使事
㈤	東京,留守	東京留守
㈥	北院林牙溥古	北面林牙溥古
㈦	北西面□阻卜	西北路□阻卜
㈧	北西面招討部統	西北路招討使
㈨	南院院事知林牙	南面□□林牙

もし小を部とすれば㈠は部院林牙となり、十を面とすれば㈧は北面面招討で理解し難い。

三　母妻人

私は1986年10月《契丹小字についての幾つかの探索I》で㠯を母、几を人とする考えを起きその後㠯と几をならべ綴ったものを妻とする即実の釈読に同意したが、この仁先墓誌ではどうか。

㠯は単独では二度出現する。

第37行　㚔㠯册劉伙㚔
次母子康公主

第65行　几㠯㠯册
兒母弟子

㠯几の組合わせは五度出現する。

第4行　㚔索又㠯几
国王，大妻

第5行　双拘糞利空㠯几
伯父，口口大王，妻

この外第5行.第6行.第62行にも㠯几がある。

几は21回出現するが、その主なものは：

第14行　余銅劳几收烘化
武清県，人李宜兒

第15行　　几舸

人生

第25行　　舸舸磐几航帆

新城県，人揚從

第33行　　嫈几

獵人（獵夫）

第53行、第54行、第56行

嫈几

西(路)人（辺民）

以上のように母＝丐、妻＝丐几、人＝几という私の結論は矛盾がない。

四　歎詞

仁先墓誌第55行に次の句がある。

四年它丈丁歿放乂嫈邪玖祭勞

此年四月廿日二齢六十行二テ招討送二薨ズ

《仁先誌》に“（咸雍）八年四月廿日以疾薨于位享年六十”とあり乂が六十であると解る。

1986年王弘力は仁懿皇后哀冊第12行の享年を正しく六十二と読んだが乂を誤って乂としていた。私は1990年前論文で乂を六十とした。